携帯電話充電の際のご注意

本製品の使用は、あくまで純正の充電器が使用できない場合の一時的なご利用を想定して設計されております。日常の充電には携帯電話会社純正の充電器をお使いくださいますようお願い申し上げます。

⚠注意

- **形状の異なるコネクターを無理に押し込まない。**破損や故障の原因となります。
- **充電開始後すぐに携帯電話に「警告」や「充電をやめてください」などと表示された場合、直ちに充電を中止する。**故障の原因となります。

取扱説明書の諸注意事項に加えて、下記の点にご留意ください。

■ 発電用ハンドルは、1 秒間に 2 回転のペースを目安に回してください。早く回しても、強く回しても、充電時間が短くなることはありません。

■ 早く強く回しすぎると携帯電話本体に過大な電流が流れ、下記の症状が発生する場合があります。
- ○ 携帯電話本体の電源が切れてしまう。
- ○ 充電異常などの内容が表示される。

上記症状が発生した場合、純正の充電器を利用し、安定した電圧電流でしばらく給電していただくと、通常の状態に戻ります。

■ 過充電にご注意ください。
給電が必要な場合にのみご使用ください（電池残量が十分なときは使用しないでください）。携帯電話の充電池部分が熱くなるようでしたら、すぐに使用を停止してください。充電池に支障をきたすおそれがあります。

■ 携帯電話の充電池が完全放電してしまっている場合は、本機を使用しての給電はできません。その場合は、携帯電話付属あるいは純正の充電器／アダプター（本体を装着して充電するユニット）を使用してください。

■ 以下の行為は絶対におやめください。
- ○ 携帯電話本体に直接接続せず、携帯電話充電器を経由して給電する。
- ○ 電池を外して給電する。

これらの行為は携帯電話機を破損させるおそれがあります。

※長期間使用しない場合でも、3カ月に1度はハンドルを回して充電してください。過放電による充電の不具合を防止し充電池を長持ちさせます。

※携帯電話機は当社製品の使用にかかわらず、何らかの原因により電話帳や登録情報などのメモリーが突然消失してしまう危険性があります。あらかじめ別の方法で控えをとっておかれることを強くお勧めします。なお、本製品の使用により一時的に携帯電話が通話できなくなったり、メモリーが消失したりいたしましても、当社では責任を負いかねますのでご了承の上お使いください。

主な仕様

受信周波数	AM：530～1605kHz FM：76～90MHz
アンテナ	AM：内蔵フェライトアンテナ FM：ロッドアンテナ
電源	手回し発電・ニッケル水素充電池内蔵 （3.6V80mAh）
連続使用時間	2 回転／秒で 3 分間手回し発電し、各機能を単独で使用した場合 ラジオ：約10 分 ライト：約90 分
携帯電話用出力	DC5.4V
ランプ	LED ランプ 1 灯※交換不可
外形寸法	幅135x 高さ 75× 奥行50mm （突起物を含まず）
質量	約198g
付属	携帯電話用コネクター 3 種類（各 1 個）、携帯電話コネクター接続コード 1 本（約50 ㎝）

※仕様および外観は、予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

OHM 株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
http://www.ohm-electric.co.jp

製品に関するお問い合わせは　お客様相談室 へ
●フリーダイヤル（無料）　●携帯電話・公衆電話からは
0120-963-006　048-992-2735
電話受付
平日 9：00～17：30　土曜 9：00～17：00
※日曜・祝日及び年末年始は除きます

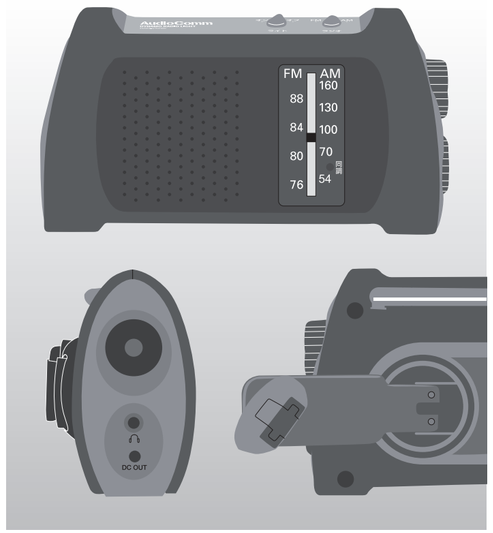
修理に関するご相談は　修理ご相談センター へ
048-992-3970　平日 9：00～17：00

07-3529B

取扱説明書

手回しラジオライト

型番：RAD-V529K



このたびは、AudioComm®「手回しラジオライト」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

正しく安全にご使用いただくため、ご使用の前に「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

AudioComm®

安全にお使いいただくために

電気製品は正しく取り扱うことによって、安全にお使いいただけます。間違った使い方は火災や感電による人身事故につながることがあります。ご使用前に取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。

⚠警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- **点灯中のライトを直視しない。**視力障害の原因となるおそれがあります。
- **歩行中にラジオを聞く場合、特に踏切や交差点などでは周囲の交通に十分注意する。**交通事故などの原因となります。
- **屋外で使用していて雷が鳴り出したら、すぐに使用を中止する。**
本機にはアンテナが搭載されており落雷の原因となります。

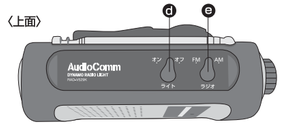
⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故により怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

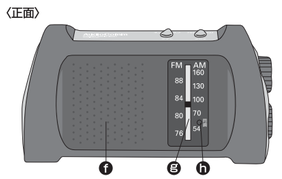
- **湿気やほこりの多い所、水滴や油煙や湯気のあたる所には置かない。**
火災、感電の原因となることがあります。
- **窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる所、暖房器具のそばなど、異常に高温になる所に置かない。**故障および火災の原因となることがあります。
- **本機を平らでない不安定な場所に置かない。**
転倒、落下で怪我をしたり、破損したりするおそれがあります。
- **本機を修理、改造しない。**
発火したり、異常作動したりするおそれがあります。

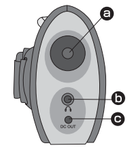
お手入れ方法

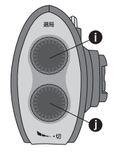
本体が汚れたときは、柔らかい布で、から拭きしてください。汚れがひどい場合は、ぬるま湯か薄めた中性洗剤で布を湿らせて軽く拭いたあと、から拭きしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので、絶対に使用しないでください。

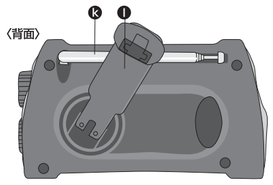
各部の名称











ⓐ LED ライト

ⓑ イヤホンジャック

ⓒ「DC OUT」
携帯電話用出力端子

ⓓ「ライト」スイッチ
（オン／オフ）

ⓔ「ラジオ」バンド切換
スイッチ（FM ／ AM）

ⓕ スピーカー

ⓖ ダイヤル表示パネル
（FM ／ AM）

ⓗ「同調」（受信状態表示）ランプ

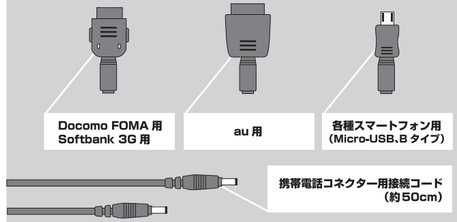
ⓘ ラジオ「選局」ツマミ

ⓙ 電源・音量調節ツマミ

ⓚ ロッドアンテナ

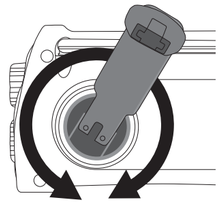
ⓛ 発電用ハンドル

付属品　携帯電話用コネクター３種類



※記載の社名・商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

手回し発電の仕方



回す方向は、時計回り、反時計
回りのどちらでも大丈夫です。

① 充電効率を上げるため、「ライト」スイッチを「オフ」に、電源・音量調節ツマミを「切」にします。

② 本機裏面にある発電用ハンドルを手前に引き出し、ツマミを持って回します。回すスピードは 1 秒間に 2 回転（1 分間に 120 回転）のペースが最適です。

③ 充電が終わったら、発電用ハンドルを元のように収納します。

④ 手回し充電により充電された電源で、ラジオやライトが使用できます。

※手回し発電は、本機の電池残量がゼロの場合は 10 分以内、残量がある場合は 5 分以内にとどめてください。それ以上行うと過充電の原因になります。

ライトの使い方

① 手回し発電を行います（「手回し発電の仕方」参照）。

②「ライト」スイッチを「オン」にするとライトが点灯します。

③「ライト」スイッチを「オフ」にするとライトが消灯します。

ラジオの使い方

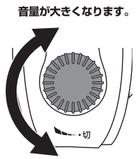
① 手回し発電を行います（「手回し発電の仕方」参照）。

②「ラジオ」バンド切換スイッチで、「FM」か「AM」のどちらかを選びます。

③ 電源・音量調節ツマミを回し、カチッと音がしたら電源が入ります。さらに回して音量を調節してください。

④ ラジオ「選局」ツマミでお好みの放送局に合わせます。選局はダイヤル表示パネルで確認することができます。

⑤ 電源を切るときは、電源・音量調節ツマミを「切」の方向にカチッと音がするまで回します。

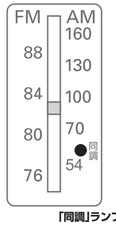


受信のコツ

受信状態が良好だと、「同調」ランプが点灯します。

AM 放送　本体に AM フェライトアンテナが内蔵されていますので、本体の向きを一番良く受信できる方向に変えてみてください。

FM 放送　本体上部にロッドアンテナが搭載されていますので、アンテナを伸ばし、一番良く受信できる方向に変えてみてください。



「同調」ランプ

※記載の社名・商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

⚠ 注意

● イヤホン使用時・耳の近くで音量を上げすぎない。
耳への刺激が強くなり聴力に悪い影響を与える可能性があります。

携帯電話への充電の仕方

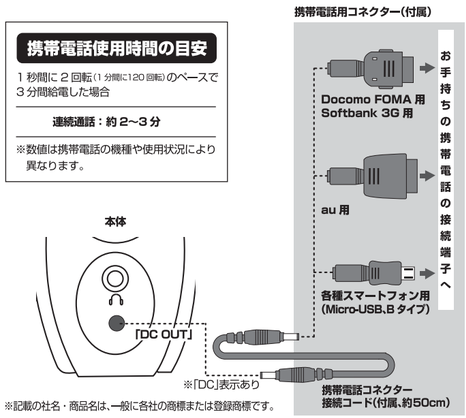
本機は、手回し発電により、各社携帯電話に給電することができます。

携帯電話使用時間の目安

1 秒間に 2 回転（1 分間に120 回転）のペースで
3 分間給電した場合

連続通話：約 2〜3 分

※数値は携帯電話の機種や使用状況により異なります。



※記載の社名・商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

① 図を参照して接続コードの DC 側を本体 DC OUT に差し込みます。お持ちの携帯電話にあった携帯コネクターを接続コードの先に接続してください。

② 携帯電話用コネクターをお手持ちの携帯電話の接続端子へ差し込みます。表面で差し込めない場合は裏面にして差し込んでください。

③「手回し充電の仕方」の項目を参照して手回し発電を行います。携帯電話が充電中の状態になりますので確認してください。
※手回しハンドルが軽く感じた場合、携帯側コネクターを差し直してください。

④ 終えるときは「2」→「1」の手順でプラグやコネクターを外します。
ご注意：携帯電話の接続端子から携帯電話用コネクターを抜く際は、ロック解 除ボタン（au 用 コネクターは裏面のボタン、他のコネクターは両側のボタン）を押しながら抜いてください。

※補助的給電機能にて、十分な充電を保証するものではありません。

※本機は一部 PHS には対応していません。

※市販されているほとんどの携帯電話に対応していますが、一部の機種で使用できない場合がありますのでご了承ください。

※給電能力は、携帯電話機の電池残量によって効率が異なります。残量ゼロの場合、充電ができません。